

# 病害虫発生予察注意報(第1号)

平成27年9月8日  
神奈川県農業技術センター

病害虫名：うどんこ病

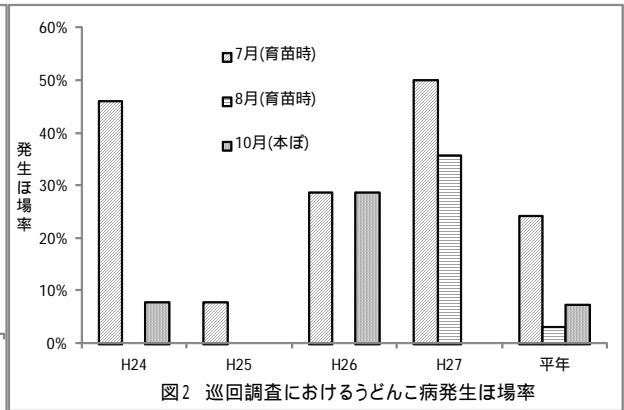
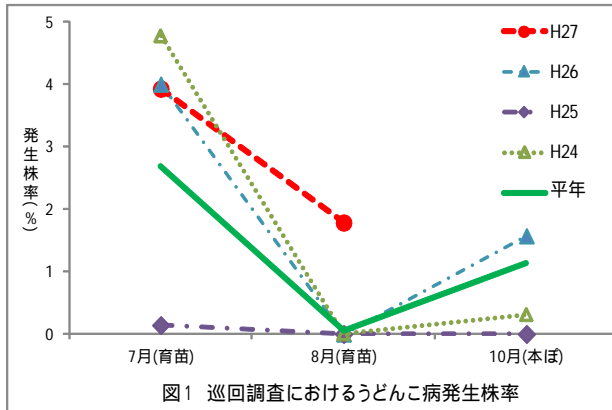
作物名：イチゴ

1 発生地域：県内全域（イチゴ栽培地域）

2 発生量：多

3 注意報発令の根拠

- (1) 育苗期の巡回調査におけるうどんこ病の発生株率は7月調査では3.93%で5年平均(2.67%)に比べ高く、8月調査では1.79%(5年平均0.05%)で過去5年でもっとも高かった(図1)。
- (2) 巡回調査におけるうどんこ病発生ほ場率は7月は50%(5年平均24%)、8月は36%(5年平均3%)で過去5年でもっとも高かった(図2)。
- (3) 8月下旬(8/20~8/26)の気象は、気温は低く、降水量は多く、日照時間はかなり少なく推移した。8月27日付け1ヶ月予報(気象庁発表)では、降水量は平年より多い確率が40%でもっとも高く、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%であるなど、うどんこ病の感染や増殖に好適な環境になりやすいため、今後も発生が増加するおそれがある。



4 防除対策

- (1) ほ場をよく観察し、発生が見られるほ場では、発病葉など発病部位をできる限り除去し、ほ場外で適正に処分する。本病は葉裏に発生することが多いので、葉裏もよく観察する。
- (2) 高温期には白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壊死斑を生ずるが、病原菌は残存しているため、本ほに発病株を持ち込まないように、壊死斑も含めて発病葉はできる限り除去し、育苗時の防除を徹底する。
- (3) 発生が見られるほ場では直ちに薬剤防除を行う。できる限り発病部位を除去した後、治療効果の高い薬剤を5日程度の間隔で2~3回散布する。その後は予防薬剤を散布し防除を徹底する。薬剤が葉裏や下位葉にもかかるよう、十分な液量を丁寧に散布する。
- (4) 草勢の衰えや、窒素肥料の過多および葉の過繁茂は発生を助長するため、適切な栽培管理を行う。

## 5 防除薬剤

防除薬剤の例を表に示した。なお、農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守する。

薬剤防除にあたっては同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。なお、QoI 剤（アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤など）やSDHI 剤（アフェットフロアブル、カンタストライフフロアブルなど）は耐性菌を生じやすいため、1作1回までの使用が望ましい。

効果	使用方法	分類記号	薬剤名	成分など	使用時期， 使用回数	ミツバチへの影響日数 *6	天敵(カブリダニ類)への影響 *7
治療のみ		-	エコピタ液剤	物理的阻害剤	[前日, -]	A	
		-	サンクリスタル乳剤 *1	物理的阻害剤	[前日, -]	A	
		-	アカリタッチ乳剤	物理的阻害剤	[前日, -]	A	
予防		NC	カリグリーン *2	炭酸水素ナトリウム	[前日, -]	A	
		F6	インプレッション水和剤	微生物剤	[発病前から発病初期, -]	A	
		-	タフパール *3	微生物剤	[発病前から発病初期, -]	A	
		M1	サンヨール	有機銅剤	[前日, 6回]	A	
		D1	フルピカフロアブル	フルピカリン	[前日, 3回]	A	
予防・治療	散布	NC+M1	ジーファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム + 銅	[前日, -]	A	
		G1	トリフミン水和剤 *4	トリフルメチル	[前日, 5回]	A	
		G1+U6	パンチョTF顆粒水和剤 *4	トリフルメチル + シルフェピト	[前日, 2回]	A	
		C3	アミスター20フロアブル	アキシスタロビン【QoI 剤】	[前日, 苗床4回] [前日, 本ば3回]	-	
		C3	ストロビーフロアブル	クソシメチル【QoI 剤】	[前日, 3回]	A	
		M7	ベルコートフロアブル *5	イミダクジン	[育苗期(定植前), 5回] [前日(生育期), 2回]	A	
		M7+G3	ダイマジン *5	イミダクジン + フェンキサミド	[前日, 2回]	-	
		M7+C3	ファンベル顆粒水和剤 *5	イミダクジン + ビリベンカルブ【QoI 剤含】	[前日, 2回]	A	
		C2	アフェットフロアブル	ベンチレラド【SDHI 剤】	[前日, 3回]	B	
		U13	ガッテン乳剤	フルチアール	[前日, 2回]	A	
予防	くん煙	U8	プロパティフロアブル	ピリオフェン	[前日, 3回]	-	
		M2	硫黄粒剤	無機硫黄	[-, -]	-	

注) 分類記号は Japan FRAC ホームページの FRAC コード表(2015年2月版)より抜粋。

\*1 サンクリスタルはストロビルリン系薬剤(アミスター、ストロビーなど)を散布した後は2週間以上間隔をあけて散布する。

\*2 カリグリーンは展着剤を必ず加用する。 \*3 タフパールは展着剤ニーズを加用しない。

\*4 パンチョTFはトリフミンと同成分が含まれるため、総使用回数に注意する。

\*5 ダイマジン、ファンベルはベルコートと同成分が含まれるため、総使用回数に注意する。

\*6 神奈川県病害虫雑草防除指導指針より抜粋。

・薬液が乾かなかつたり臭いが残る場合は、訪花活動に影響を及ぼす場合があるので、薬剤散布前日の夕方に巣門を閉めたうえ施設外に移し、薬剤の処理を行うようにする。

・巣箱を再導入する前には、換気を十分に図り、薬液が乾いていることを確認のうえ、巣門を開けるようにする。

A : 散布当日から散布一晩経過の後、巣箱を再導入できる B : Aに該当しない農薬で48時間以内に巣箱を再導入できる - : 影響不明

\*7 アリスタライフサイエンス(株)作物保護製品ガイド2015よりミヤコカブリダニ、チリカブリダニへの影響を抜粋。空欄は記載がないもの。

: 死亡率 0 ~ 25% : 25 ~ 50% : 50 ~ 75% (野外・半野外試験)

: 死亡率 0 ~ 30% : 30 ~ 80% : 80 ~ 99% (室内試験)

神奈川県農業技術センター  
 病害虫防除部  
 〒259-1204 平塚市上吉沢1617  
 TEL 0463-58-0333  
 FAX 0463-59-7411  
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>